

令和6年10月23日

件名 アートプロジェクト高崎 2024 を 10 月 26 日(土)から開催

高崎アートインキュベーション推進会議（会長：山崎 健）は、10 回目となる都市型アートイベント【アートプロジェクト高崎 2024（APT2024）】を 10 月 26 日(土)から、高崎西口の中心市街地（屋外アート展示）で開催します。

今回のテーマは、「表現のダイバーシティ 限りなく広がる多彩なアート」。これまで以上にバラエティ豊かなアート作品が登場するので、日常に現代アートが溶け込んだ、普段と違う街中の風景をお楽しみください。

県内外から約 40 人の作家が参加。今年も高崎駅ビルモントレイ（Chocomoo、田中七星）や旭町ビル（カネコタカナオ）に巨大絵画を展示します。立体作品は、本市出身の稲わらを使った彫刻（わらアート）作家・松本勇馬のわらの象、スイーツデコの技術をアートに取り入れた作家・渡辺おさむの恐竜など、個性豊かな作家たちの多様性に富んだ作品を展示します。また、アートパフォーマンスも 3 組出演します（11 月週末）。

【イベント概要】

期間：10 月 26 日(土) - 12 月 1 日(日)

会場：高崎中心市街地、高崎モントレイ（壁面）、慈光ビル、慈光通り、大手前通りほか

主催：高崎アートインキュベーション推進会議

共催：高崎市、公益財団法人高崎財団、一般社団法人高崎観光協会

（本件に関する問い合わせ）

総務部文化課

電話：027-321-1203

22 丸山咲 [Saki MARUYAMA]



2002年東京都生まれ。2024年現在、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科在籍中。リフレクションや面中画、被写界深度などの多層構造によって、虚像と実像、見る側と見られる側、遠景と近景といった複数の世界を一つの平面上に同居させた絵画を制作している。

23 真下京子 [Kyoko MASHIMO]



館林市生まれ。東京学芸大学造形科卒。国内個展14回。高崎シティギャラリー、機乎堂、ノイエス朝日等。都内には有楽町 曜日ギャラリー、ギャラリー・コンセプト21等。海外出展、ヨーロッパ巡回(日本現代芸術フェスティバル・ブルガリア)等。国内出展は「次元を超えて(横浜レナガ倉庫)」、現代の書・新春100人展(銀座セントラル・ミュージアム)」等。

26 身体企画ユニット ヨハク [YOHAKU]



2016年3月、結成。ダンスの定義の「余白」を攻めることを楽しみ、そのフィールドとして、またアイディエーションのツールとしてダンスを使うユニット。Excelの舞踊譜を用いて複雑な動きの交錯を実現させる「スクランブル交差点」、など、身体・メディアを自在に変容させて作品を企画している。近年の受賞に Art Award IN THE CUBE 2023 入選など。

26 大口向基子 [Motoko OHINATA]



2000 Kent Institute of Art & Design Master of Arts in Fine Art with Distinction
1999 Kent Institute of Art & Design Bachelor of Arts in Fine Art with First Class Honors
1995 武蔵野美術大学短期大学部専攻科修了。
舞踊のスキルにとわれない身体表現の可能性を探っている。

22 竹内美樹 [Miki TAKEUCHI]



2000年群馬県生まれ。2017年群馬県高校総合文化祭美術・工芸部門 優秀賞。2018年都門最優秀賞、浜川市民美術展市長賞、県美術展佳作。2019年多摩美術大学 絵画学科油画専攻入学。2023年卒業制作優秀作品 選抜。同学 大学院絵画学科油画研究領域 入学。グループ展「名前のない料理」。

25 松本勇馬 [Yuma MATSUMOTO]



1977年 高崎市生まれ。稲藁を使った彫刻「わらアート」を全国各地で制作。日本伝統の農の有効利用文化をアートの文脈で継承する。また、制作作業は住民と協働でおこなうことで、地域コミュニティの新たな構築を目指している。2000年より大地の芸術祭こへび隊。イラストレーター、映画制作美術監督等としても活躍。

26 高橋哲人 TETSUJIN - AUDIO VISUAL



ロックスターを夢見て中学校の教室の片隅でほうきをかき鳴らした作者の記憶と、作者が大人になって人生に悩む「いあの頃のよう夢を見て生きたい」という想いが交差して生まれた「清掃楽団：ほうきギター」。見た目はただのほうきだが、音と光を奏でられるそんな不思議な楽器による、音と光のオーディオビジュアルパフォーマンス。

27 遅四グランプリ実行委員会 [SLOW MINI 4WD GP Organisation]



「第1回 遅四グランプリ」西荻窪大学コース(東京)～第5回まで開催。「第27 回岡本太郎現代芸術賞(TARO賞)」入選企画「遅四2024～人類の進歩と遅延～」川崎市岡本太郎美術館(神奈川)。グループ展「乗り物で行く!!」(崎々CREATIVE(神奈川))、「遅四グランプリ」机上の空論大会～わが遅対性理論～(仲町の家(東京)など。



Art Project Takasaki 2024

【アートプロジェクト高崎】(略称:APT)
【期間】2024年10月26日(土)～12月1日(日)
【会場】高崎中心市街地、高崎モントレー、高崎OPA、高崎高島屋、慈光通り 他
【主催】高崎アートインキュベーション推進会議
【共催】高崎市、一般社団法人高崎観光協会、公益財団法人高崎財団
【後援】ラジオ高崎
【協力】たぐの里

パフォーマンス

身体企画ユニット ヨハク
11月2日(土) 複数回上演予定

大口向基子「白い人々(アートプロジェクト高崎)」協力:上州写真連
11月23日(土・祝)

高橋哲人 TETSUJIN - AUDIO VISUAL
11月30日(土)

APT
ART PROJECT TAKASAKI

【お問い合わせ先】

高崎アートインキュベーション推進会議(ラジオ高崎内)
〒370-0849 群馬県高崎市八鳥町265番地 TEL:027-322-9195
http://taka-art.jp/2024/



ART PROJECT TAKASAKI



- Aki NOMURA
- Akira YANAGISAWA
- Asae SOYA
- Ayumi TSUCHIYA
- Chocomoo
- Christina LYKOKA
- Emiko AOKI
- Hiroaki SANO
- Hiroki KOMATSUBARA
- Ikuta OKUNADA
- Kana WATANABE
- Kaoru HIRANO
- Kazuhisa AKETA
- Kjell HAHN
- Kodai KANAMORI
- Kyoko MASHIMO
- Masayuki KITAMURA
- Mayu KUROIWA
- Miki KOGURE
- Miki TAKEUCHI
- Mioko BABA
- Misako KON
- Miyuki TAKENAKA
- Motoko OHINATA
- Nahoshi TANAKA
- Natsuki OTAKE
- Nozomi KOBAYASHI
- Operation team of SLOW MINI 4WD GP Organisation
- Osamu WATANABE
- Rei YAJIMA
- Saki MARUYAMA
- Sanae YAMADA
- Shinji MITSUZUKA
- Takanao KANEKO
- Tamanosuke TOYODA
- TETSUJIN-AUDIO VISUAL
- YOHAKU
- Yuki KASHIWAGI
- Yuma MATSUMOTO

表現のダイバーシティー 限りなく広がる多彩なアート

アートプロジェクト高崎

2024.10.26 sat — 12.1 sun

高崎中心市街地、高崎モントレー、慈光通り、飛龍の松前広場 ほか

主催:高崎アートインキュベーション推進会議 共催:高崎市、公益財団法人高崎観光協会、一般社団法人高崎財団 後援:ラジオ高崎
お問い合わせ:高崎アートインキュベーション推進会議(ラジオ高崎内) 〒370-0849 群馬県高崎市八鳥町265番地 TEL:027-322-9195

上から:Chocomoo SLOW DAY TODAY: 10月19日(土)、10月20日(日) 高崎OPA: 10月26日(土) 高崎高島屋: 10月27日(日) 高崎モントレー: 10月28日(月) 高崎中心市街地: 10月29日(火) 高崎中心市街地: 10月30日(水) 高崎中心市街地: 10月31日(木) 高崎中心市街地: 11月1日(金) 高崎中心市街地: 11月2日(土) 高崎中心市街地: 11月3日(日) 高崎中心市街地: 11月4日(月) 高崎中心市街地: 11月5日(火) 高崎中心市街地: 11月6日(水) 高崎中心市街地: 11月7日(木) 高崎中心市街地: 11月8日(金) 高崎中心市街地: 11月9日(土) 高崎中心市街地: 11月10日(日) 高崎中心市街地: 11月11日(月) 高崎中心市街地: 11月12日(火) 高崎中心市街地: 11月13日(水) 高崎中心市街地: 11月14日(木) 高崎中心市街地: 11月15日(金) 高崎中心市街地: 11月16日(土) 高崎中心市街地: 11月17日(日) 高崎中心市街地: 11月18日(月) 高崎中心市街地: 11月19日(火) 高崎中心市街地: 11月20日(水) 高崎中心市街地: 11月21日(木) 高崎中心市街地: 11月22日(金) 高崎中心市街地: 11月23日(土) 高崎中心市街地: 11月24日(日) 高崎中心市街地: 11月25日(月) 高崎中心市街地: 11月26日(火) 高崎中心市街地: 11月27日(水) 高崎中心市街地: 11月28日(木) 高崎中心市街地: 11月29日(金) 高崎中心市街地: 11月30日(土) 高崎中心市街地: 12月1日(日)

APT
ART PROJECT TAKASAKI

表現のダイバーシティー—— 限りなく広がる多彩なアート

ART PROJECT TAKASAKI 2024

番号は展覧の会場案内と共通です。

4 クリスティーナ リーコカ [Christina LYKOKA]



アテネ生まれ。ギリシャでインテリアデザイナーとして活躍。現在はカナダ・トロントに住み、デジタルアナログイラスト、写真、ビデオ撮影、編集、3Dアニメーション、合成、サウンドデザイン等の作品作りをしている。精力的に活動し、国際的なアートフェアやフィルムフェスティバルで紹介されている。

7 渡辺香奈 [Kana WATANABE]



高崎市出身。2003年度應義塾大学総合政策学部卒業後、2005年に応義塾大学大学院政策メディア研究科修了。緻密な花の絵やスペイン留学で磨かれたデッサン力を生かした猫の木炭デッサンなどを発表している。

10 柳澤顕 [Akira YANAGISAWA]



1980年群馬県生まれ。2003年筑波大学 芸術専門学群 洋画コース 卒業。2005年京都市立芸術大学 大学院 美術研究科 美術専攻油画 修了。2011年同大学大学院博士(後期)課程修了。コンピュータや描画道具、身体性の偶然性を積極的に作品に取り込むことで、無機質と有機的な性質が共存した絵画を、創発的に制作している。

14 野村亜希 [Aki NOMURA]



1992年群馬県生まれ。群馬県立女子大学美術学専攻卒業。2019年から桐生大学短期大学部アート・デザイン学科助手。自分の内面の発露を自分で肯定するために、透明水彩から3Dプリンターまで、抽象から具象まで、自分と向き合って自分が欲しいと思う様々な作品を作る。

18 曾谷朝絵(招待作家) [Asae SOYA] 展示期間11/19まで



2006年東京芸術大学大学院博士後期課程美術研究科にて博士号(美術)取得。2001年昭和シェル石油現代美術賞グランプリ。2002年VOCA展 2002 VOCA賞(グランプリ)、他受賞多数。1人独逸として、2022年スエラルガーデン・東京、2013年水戸芸術館現代美術ギャラリー・茨城、2010年養生堂ギャラリー・東京、他多数。2024年自身の彫刻作品を現代彫刻館大前に巨大設置。

18 三塚新司 [Shinji MITSUZUKA] 展示期間11/6-17限定



スキー・バトール、ライフガード、自転車便メッセージなどを経て、1999年に東京藝術大学先端芸術表現科へ一期生として入学。在学中より千代田市の放送作家として映像関係の仕事に携わる。その後、雑誌編集者、テレビ局ディレクターを経て、2018年より作品の発表を始め「疑問の疑問」「META 疑問」に基づいた作品として、巨大バナナの皮の作品を制作する。

22 奥灘幾多 [Ikuta OKUNADA]



京都芸術大学マンガコース卒業、漫画家。2021年「いちろちゃんはキモい」で「2020年後期・第78回ちばてつや賞 一般部門」奨励賞受賞。短編集『斧場より眺せて』を刊行。2022年スライスト・フエスティバルを刊行。スベリオールにて『ああ、そっか』を不定期掲載。2023年『運命だ』と思っ

1 渡辺おさむ [Osamu WATANABE]



2003年東京造形大学デザイン学科卒業。スイーツデコの技術でアートに昇華させた第一人者として数々のTV番組にも注目される。木物そっくりのカラフルで精巧なクウムやキャンディ、フーズなどを用いた作品は海外でも注目を集め、中国、インドネシア、イタリア、ベルギー、トルコ、アメリカ、韓国などでも個展が相次いで開催され話題を呼ぶ。

4 山田沙奈恵 [Sanae YAMADA]



美術家。東京都を拠点に活動。フィールドワークを中心とした取材によって、人間と自然環境の関係性をひとつく映像作品を制作する。国内外の展覧会をはじめ、映画祭等にも参加。近年の主な個展に(山田沙奈恵展 トボフィア) (富岡市立美術館・福沢 一郎記念美術館、群馬、2023) など

8 木暮美紀 [Miki KOGURE]



1967年群馬県生まれ。2004年 真下京子に師事。2014年 高真会展 ころがけ金文 出品。2015年〜2019年現代の書と化 作品 / ライフアブスクエアアジス。2018年Ten.Ten2023in横浜赤レンガ倉庫へ線のゆくへへ 出品。2024年 視覚の冒険者たち 出品 / 高崎市美術館

11 カネコタカナオ [Takanao KANEKO]



1977年埼玉県生まれ。武蔵野美術大学短期大学部 美術科卒業。キャラクターや記号などをミックスし、曖昧さの中にある形の繋がり・連続していくものとズレていくものなどの概念を、ストーリーの視点から作品に落とし込み具現化しているアーティスト。『らのくろ』にはじまり、80年代からいまでの漫画への強い関心が表現に現れている。

15 馬場美桜子 [Mioko BABA]



1991年東京都生まれ。2014年多摩美術大学 美術学部絵画学科油画専攻 卒業。2016年同大学院 美術研究科博士(前期課程 絵画専攻油画研究領域)修了。現在 多摩美術大学 油画研究 助手。日常の中で、道端や畑などに打ち捨てられている植物をモチーフに、それらの状態が変化し、生と死が混在するような状態をテーマに油彩を描いている。

18 矢島玲衣 [Rei YAJIMA]



2001年千葉県生まれ。武蔵野美術大学 視覚伝達デザイン学科在籍中。映画における、暗い部屋で投影される光の面を観ることに対しての関心をもとに、物語や演出を超えて映画体験が人々に何をもたらすかを探索している。

20 大竹夏紀 [Natsuki OTAKE]



1982年 富岡市生まれ。2008年 多摩美術大学 大学院美術研究科デザイン専攻修了。染色の伝統技法である糊付け染めで、絹布に染料で絵画を制作する。明るく、ポジティブな世界観を、大女や女神をモチーフに落としこんだ作品を国内外で発表している。

22 平野薫 [Kaoru HIRANO]



モノクロ写真で見えるような音のJAZZの人たちが好きで、その気配らないアドリブのような雰囲気絵にしたい。何も考えずにペンを動かしたら、そんなJAZZの人たちが出てくるかもしれないと考えながら描いているので、まだまだです。

2・24 Chocomoo [Chocomoo]



モーションが持つアナログな未完成の美に魅了され、2008年頃から本格的に作品作りを開始したイラストレーター。音楽や映画等のサブカルチャーや時代背景を反映した作品を制作しながら、数々のパブリックや企業の他、人気アーティストへのART提供も行う。また、国内外でアートショーやコラボレーションアイテム制作等のクリエイティブ活動も成功させ、幅広いシーンで活動中。

5 つちやあゆみ [Ayumi TSUCHIYA]



「音」や「触れるコト」をテーマに木材をはじめ様々な素材でインタラクティブな作品を基本1人手作業で制作。各地のアートイベント、美術館、科学館などで体験型の展示を開催し、無印良品、ベネッセ、カリモク家具、東京デザインリゾート イクスブリアなど、企業とのコラボレーションも手がける。

8 小松原洋生 [Hiroki KOMATSUBARA]



1990年武蔵野美術大学短期大学部 専攻科美術専攻修了。現在 桐生大学 短期大学部 アート・デザイン学科教授。水彩絵の具などで手描きしたものをデジタル化し、CGを使ってコンピュータ上で再構成し作品を生み出していく。再構成の過程で偶然現れる色や形をつかまえ、自身がルタ表現したかったものと違った新しい表現を探っている。

12 佐野広章 [Hiroaki SANO]



1972年、埼玉県出身。1999年、多摩美術大学 大学院 美術研究科 絵画専攻 修了。2022年、筑波大学 大学院 人間総合科学研究科 博士後期課程 芸術専攻 修了。現在、日本版画協会会員、群馬版画協会会員、版画学会会員、芸術学研究会会員。

16 キール・ハーン [Kjell HAHN]



1978年アメリカ・ミズーリ州生まれ。2001年トルーマン大学卒業。22歳で初来日し、2013年からは群馬県藤岡市電気でアートイン・レジデンス「シロオニスタジオ」を経営。これまで30カ国から約200人の外国人アーティストが滞在した。第25回(令和2年度)群馬県国際交流賞受賞。

18 今実佐子 [Misako KON] 展示期間11/19まで



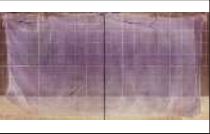
1991年東京都生まれ。2016年筑波大学 大学院 人間総合科学研究科 博士前期課程 修了。山紅やファンデーションなどの化粧品を使用して絵を描く。化粧品は、社会から自分を守る為の「仮面」を皮膚の上に作り上げる行為。化粧品で描いた絵を「自画像」と捉え、今日という現代社会を生きる自分自身を絵に描き写している。

20 小林望美 [Nozomi KOBAYASHI]



茨城県出身。群馬大学教育学部 卒業。2016年より彫るモザイク表現で活動を開始。自分が保有する無意識の加害性などどうに向き合っていくべきなのか。その問いに自身の経験から成る作品を介して、鑑賞者と議論や時には同じ背景を持つ者たちの連帯を展開していく「機会」をうむネットワークになりたいという思いで活動を行っている。

22 北村真行 [Masayuki KITAMURA]



1967年群馬県生まれ。2000年東京芸術大学 大学院美術研究科博士(後期課程美術専攻(油画))修了。1998年INAX ギャラリー/東京、GALERIE SOL /東京、2000年東京芸術大学 大学院美術館陳列館 /東京、gallery nude /群馬、他 個展グループ展多数。

3・19 金森昂大 [Kodai KANAMORI]



2000年奈良県生まれ。2024年武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。現在、東京を拠点に、日常の中に潜む微細なズレや違和感をテーマに制作活動を行う。普段は見過ごされがちな些細な違和や感覚を捉え、立体物や空間を用いて視覚的に表現する。見る者に違和感や驚きを感じさせることによって、当たり前とされる感覚を描き出す作品を発表している。

6 田中七星 [Nahoshi TANAKA]



1977年、東京都生まれ。ドローイングやコラージュを中心に制作活動。2000年、武蔵野美術大学卒業。2005年、Royal College of Art, MA修了。2007-08年、Cite Internationale des Arts滞在。2011-12年、中国美術学院 国際賞奨学生。2023年、畫アートコンペ2023梅田版画上野賞受賞。2006年、武蔵野美術大学バリエーション賞受賞。その他活動賞・受賞無数多数。

9 竹中美幸 [Miyuki TAKENAKA]



美術作家、多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業後、同大学大学院美術研究科修了。東京を拠点に活動。近年の個展に「物語はつづく」(2023 ストピアセンターアートギャラリー・岐阜)、近年のグループ展に「奥能登国際芸術祭2021-継続/スズ・シアター・ミュージアム」、主な受賞歴に2020年清流の国賞芸術賞、藤原賞、2012年シェル美術賞/鳥取県芸術委員奨励賞など。

13 青木恵美子 [Emiko AOKI]



1976年埼玉県生まれ。多摩美術大学 大学院 美術研究科 油画研究領域修了。2010年「トキヨーワンダーウォール2010年」(東京都現代美術館)、を始め受賞歴多数。生命を多岐する色彩、一筆一筆の色彩が花卉のような形態となり作品を作っていく。絵具という物質に生命が宿るような画面になればと思い制作している。

17 柏木優希 [Yuki KASHIWAHI]



1991年静岡県生まれ。2014年武蔵野美術大学 油絵学科版画専攻 卒業。2016年武蔵野美術大学 大学院造形研究科美術専攻版画コース修了。2020年武蔵野美術大学通信教育課程助教。現在は桐生大学短期大学部アート・デザイン学科 助教を務める。

18 黒岩まゆ [Mayu KUROIWA] 展示期間11/19まで



平面や立体、インスタレーションなど様々な手法で、独特な色彩と多国籍で不思議な世界観を創作する現代美術家。近年では「人間讃歌」「多様性」をテーマに、力強い人形(ひとがた)作品を制作。絵本作家としても活動しており、絵本「うちゅうひゃっかてん(小学館)など。刺激による作品も手がけ、ワークショップも多数開催。

21 明田一久 [Kazuhisa AKETA]



1971年高崎市生まれ。高崎市在住。1997年大阪芸術大学芸術専攻科美術専攻彫刻修了。石との出会いが大学時代。迷走を迷った末、石に決めた。地球の欠片を捉えるという壮大さ、そして強さに惹かれたからだ。当初は在学中だけ石彫を学べたという気持ちだったが、結局、石彫が大学生活にまはってしまい現在に至る。

22 豊田玉之介 [Tamanosuke TOYODA]



1988年群馬県生まれ。2011年信州大学教育学部芸術教育専攻美術教育分野 卒業。作品を制作することは必ずしも理解することが目的ではありません。作品を制作し発表することは美的なプロセスであり、無表情で感情を読み取ることが難しい人物、何も描かれていない背景などの要素を組み合わせることで鑑賞者の感性を刺激することを意識して制作しています。